

社 会 科 教 室

第 160 号

平成 26 年度

香川県小学校教育研究会社会科部会
香川県小学校社会科教育研究会

【巻頭言】

社会科の魅力とは？

本年度の理事会及び総会において、全国小学校社会科研究協議会研究大会並びに第41回四国社会科教育研究大会香川大会の大会主題を「自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力をつくる教育」として掲げることが決まった。

私は(部)会長を引き受けるにあたり、これまでにない「重責」というプレッシャーを強く感じ、その責務を果たすためのヒントが得られるのではと、書棚に眠っていた『香社研30年史 社会科とは何か』(昭和58年(1983年)3月発行)を改めて読み直した。

巻頭では故東原岩男先生が「香社研は常に時代を先取り、その研究は全国的な注目を集めるものであった。…(中略)…世はまさに激動の時代。21世紀に生きる子供たちのために、今こそ社会科の素志を顧み、先輩の足跡に学びたい。」と格調高く述べられている。また、編集を担われた故亀山信夫先生の次のような文章に触れ、これからの在り方を教えていただいた。

「いつだったか、退職も近いある校長先生から「教科書を使ってでもできるような地についた社会科研究をしてくださいよ」という注文を受けたことがある。その頃は、まだ若かったせいか、そのことばが、たまらなくいやであった。若い教師のひたむきな研究活動に水をさすようであり、内心不満であった。しかし、今ごろになって、やっとそのことばの意味がわかりかけてきた。

花々しい論争も、人をあっといわせるような着想も、それはそれとして価値を認める。研究には、もともと、そうした激論と新しい着想がなければならないからである。しかし、戦後の社会科研究史の跡をたどってみると、それが咲かせた花は、すこし無駄花が多かったのではないかと思うのである。」

また、「社会科とは何か」についての長時間討論の内容が巻末に掲載されている。そこでは、故岡田弘治先生の「社会科で一貫して求めてきたものは何か」についての提案を受け、①子供の成長にとって、社会科とは何か、②学習問題がどう変わるのか、③これからの香社研にのぞむことを柱に10名の大先輩による熱気あふれる討論が行われている。30年も前の議論が、決して古く感じられることはなく、いや今の私たちが検討すべき課題を提示されているように思えることに驚かされ、私たち的大先輩の方々の見識と熱意に改めて感服した。

振り返ってみると、私が定例会や夏季研究集会等にできるだけ参加しようとしたのは、多くの先輩の慧眼に触発され、そうした先輩方をロールモデルとし、次の研究会では少しでも議論できるようになりたい、提案された実践を自分の学級でも取り入れてみようという思いからであった。若い教員を惹きつける魅力が、研究団体としての香社研にはあったのである。そして今、子どもに「社会科の魅力」を感じさせることはもとより、教員にとっても「社会科の魅力」を感じることができる研究団体であり続けることが求められていると考え始めると、一層のプレッシャーを感じるようになった。

そうは言っても本年度は、研究推進に係る理論の整理や具体的な実践の積み重ね、大会運営等について、具体的かつ緻密な計画と作業が実務として求められる年である。大会2日目に公開授業並びに学年別授業研究会等を開催する会場校を引き受けていただいた高松市立十河小学校と観音寺市立観音寺小学校では、校長先生のリーダーシップにより学校を挙げて社会科教育の在り方を追究する体制が整い、地道な実践研究がスタートしたと伺っている。私たち社会科を主たる研究教科としている「香社研」の会員は、「自ら社会に参画するとは」「今、求められる資質・能力とは」「社会科の魅力をつくる教育とは」といったことを自ら問いかけ、真摯な実践研究を通じ、これからの社会科教育の在り方を両校とともに追究し、研究団体としての組織力を一層強化し、四国はもとより全国への発信に備える一年としようではありませんか。

香川県小学校教育研究会社会科部会
香川県小学校社会科研究会
(部)会長 野村 一 夫

自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る教育

I 研究主題について

1 研究主題設定の背景

日本は少子高齢化・グローバル化が加速的に進行している。この中で、学校はどう変わらなければならないのか課題である。まず、少子高齢化については一人一人の生産性を伸ばしていくことのできる教育が求められている。これまでの日本は、国内の市場を主な対象に商品を開発し、競争力を増しながら経済を成長させることができてきたが、これからは少子高齢化に伴い、それは望めない。今後は、日本の市場が縮小する中で世界を相手に仕事をしていく能力、世界に貢献していく能力をもつ人間づくりが求められている。この能力は、課題に向かって自分の力で社会の中の一員としてどう生きていくか、どう貢献していくかという能力である。言い換えると、「社会を生き抜く力」と言える。

一方、文部科学白書では、教育現場の課題について次のように述べられている。「学校におけるいじめや体罰の問題など、子どもの安全関わる悲惨な事件が起きています。また、子どもたちの学ぶ意欲の低下なども懸念されると共に、社会全体の規範意識の低下、家庭や地域についての価値観の変化などが子どもの健やかな成長に影響を与えています。このように我が国の教育に対する信頼は揺らぎ、いくつもの大きな課題に直面しています。」

つまり、グローバル化という点からは、自ら主体的に社会に参画しようとする子どもの姿が、また、いじめや学習意欲の低下等の問題については、学ぶ意欲をもち、子どもが生き生きと学ぶ社会科の授業づくりが求められているといえる。

これまでの香社研の研究を振り返ると、平成20年度の四国大会においては内容研究（社会認識をひらく）に重点を置いて研究を行い、その成果を「社会科ノートによる思考力の育成」として研究図書にまとめてきた。その後、平成21年度から平成23年度にかけては、「意欲」「思考力」「評価」といった学習方法の研究を中心に取り組み、平成24年度からはこれまでに積み上げてきた「内容論」と「方法論」を統合して「社会的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習」というテーマのもと研究を進め、全国大会へと研究を深めているところである。

しかし、平成20年度から25年度までの6年間の研究は、一定の成果を挙げたとはいえ、現在どうしても超えなければならない大きな課題に直面していると言える。その一つは、「公民的資質を養うとする社会科のねらいに迫る社会に参画する資質・能力を高める取り組みである。もう一つは、そのねらいを達成するための学習指導の在り方であり、子ども主体の問題解決的学習の授業づくりである。

この2つの課題を解決すべく、全国大会研究主題「自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る教育」を設定した。次に、研究主題のもつ意味について説明したい。

2 研究主題のもつ意味

(1) 「自ら社会に参画する資質・能力を高める」ことについて

小学校社会科の学習は、学習指導要領解説によると「地域社会や我が国における人々の社会生活を広い視野からとらえ総合的に理解することを通して、公民的資質を養う」ことを究極的なねらいとしている。

文中「広い視野からとらえる」は、社会生活について多面的・多角的に考察し社会科的な見方を深めることであり、「公民的資質を養う」は、社会的な見方・考え方を深めることにとどまらず、社会人としての在り方を求めることである。これは、社会的な見方・考え方・在り方を互いに関わり合わせ、現実の社会につないでいくことにより、養うことができるものと考えている。

社会への参画については、「持続可能な社会の実現を目指すなど、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う」として、今回の指導要領改定でも重視されているところであり、これからの授業づくりの目指す方向として大切にしていけることが求められる。

ここまで述べてきたように、社会科の内容研究を充実させ、それを思考と表現の一体化により自らの学びを深め、実社会・実生活へつながりを求めていく学習、言い換えると社会的な在り方を自覚し、自らが社会に参画しようとする意識をもつ学習が大切なのである。

(2)「社会科の魅力を創る教育」について

今、全国的に社会科の大きな課題になっていることは、社会科学習が「知識」の重視に偏り、学ぶ喜びを感じにくくなってきていること、また、真の「理解」が伴っていないため、学ぶ価値が実感できにくいことなどが挙げられる。

一部の社会科を専門とする教員による授業では、教科書教材を基本にしながらも地域教材の活用を図り、内容を再構成して、子どもが主体的に学ぶ工夫を取り入れながら授業づくりを行っているのに対して、社会を専門としない教師が行う授業の中には、「教科書を読み内容をノートに書く学習」

「教科書と教科書指導書により解説しながら板書する学習」「教科書と『社会科の基礎』（ワーク）による学習」など画一的で受け身的な学習が行われている場合も多く見られる。

このような現状から考えると、社会科の授業を子どもたちの主体的な学習、意欲を深めていく学習、そして探究することに喜びをもつ学習にする必要がある。このような授業づくりを目指していくところに、先に述べたいじめや学習意欲の低下等の課題解決の糸口が見えてくると考えている。

「社会科の魅力」については、社会科発足当初の初期の学習からその経緯をたどり社会科を見つめ直すことで、本来あるべき社会科授業の在り方が見えてくる。

香社研では、次に挙げる3つの視点を社会科の魅力として捉え、研究を深めていきたい。

視点1 目指す子ども像とつかませたい社会認識の明確化

視点2 社会参画を意識した指導計画の作成

視点3 子どもが実感的な問題意識・課題意識をもち、主体的に意欲をもって課題を解決する学習の在り方

視点1については、社会科学習を通してどのような子どもを育てたいのか、目指す子ども像を各学校で明確にしておくことが必要である。社会科が戦後一貫して求めてきたのは、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」である。このことを念頭に置き、各校なり子ども像を描くことが大切である。また、そのような子どもを育てるためには、1つ1つの単元を通してどのような社会認識をつかませたいのかを明確にしておく必要がある。それにより、教材の扱いや単元の組み立て方も大きく異なってくる。

視点2については、教師自らが指導計画を作成していくことが求められている。また、それは、1つの単元だけではなく、多くの教師の協同によって全ての単元において、よりよい社会の形成への参画を意識した指導計画をつくっていくことが重要である。かつての教師集団は、「〇〇プラン」として競って自分たちの理想とする指導計画の作成を行っていた。そこに社会科教師としての魅力を感じていたのである。今一度、現場教師がチームを組んで指導計画を作成する教師力をもてるようにしたい。

視点3については、冒頭でも述べたように、単元や1時間の授業の中で、いかに子どもたちが意欲をもち、主体的に取り組んでいけるような学習にしていくかということである。主体的に学んでいくことは、教師の一方的な教授とは異なり、自らが思考して知識や概念を獲得していくことに他ならない。ここでは、思考の過程を通して知識や概念を獲得していくのかということについても明らかにしていきたい。

香社研では、このような3視点を通して、これまでの社会科研究を振り返り、香社研の伝統と研究の積み上げの上に社会科の魅力を創る教育を求め、全国大会においてその成果を発信していきたい。

Ⅱ 研究主題探究の方策

1 「自ら社会に参画する資質・能力を高める」ことについての方策

(1) 「社会参画」の意義

平成18年に、59年ぶりに教育基本法が改正され、教育の目標に「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」が新たに盛り込まれた。それを受けて、平成19年の学校教育法の改正により、義務教育の目標にも同様なことが規定された。

「社会参画」という言葉が一人歩きをしている感があるが、その前提としての「公共の精神」がまず大切にされなければならない。「公共の精神」とは、社会全体の利益のために尽くす精神、まさに国や社会の問題を自分自身の問題として考え、社会の他の人々と一緒に協力し合いながら社会を形成していく精神のことを指す。

これまでの日本人は、ややもすると国や国家はだれかがつくってくれるものという意識が強かったのではないだろうか。これからは、国や社会の問題を自分自身の問題として考え、そのために積極的に行動していくことが大切である。自分から積極的に社会の形成にかかわり、よりよい社会をつくっていくんだという自覚をもつこと、それがいわゆる社会参画である。

つまり、社会参画という前に公共の精神や公正な判断力、あるいは社会に向ける関心などを教育活動全体で育むことが大切である。社会参画はその先にあるものである。社会参画も必ずしもゴールではなく、学習経験と考える必要がある。

(2) 自ら社会への参画を求めることについて

私たちがよりよい社会を目指し、築いていくためには、社会生活の内容を基礎とした地理的な内容・歴史的な内容・公民的な内容の見方や考え方の学びを実社会の生活における社会的な自分たちの在り方を社会への参画につなぐこと、言い換えると社会の中で「働く」ことにつないでいくことによって達成し得るものである。

社会につなぐ内容としては、社会生活の中で、地理的な内容としては地域の調査・観察の中で「ひと・もの・こと」とのかかわりから、歴史的な内容としては人物・伝統や文化などのかかわりから、公民的な内容としては、災害・福祉・環境・エネルギー・平和等のことなどから迫ることが、取り組みやすい。現実の社会につないでいこうとすることは、全ての単元でできることではないが、参画への意欲や態度の育成にあたっては、次の3つの視点を大切にして授業を行うことが大切である。

① 社会的事象の確かな理解

よりよい社会を目指して取り組む人々を「参画するモデル」として取り上げる。実社会に生きる人々がどんな目的で、どんな願いをもって、どんな働きをしたのかなど、社会的事象の意味を理解することが大切である。

② 思考力・判断力・表現力

社会は、様々な働きが相互に関係し合って、課題を解決してきている。そのため、多面的に考える、人ごとではなく「将来にわたって」自分の関わり方を考えるバランス感覚をもって判断する、意見交換ができるといった能力を育む必要がある。

③ 社会的な見方や考え方

社会的事象の意味をとらえる見方、考え方、在り方を養うことによって、自分の社会に対する働きかけの在り方について見つめ直し、自分の在り方について考えることができる。協働への糸口を見つけ、かかわろうとすることが大切である。

授業の中で「あなたにできることは」と拙速に答えを求めるのではなく、事実をしっかりと確かめ、自分たちのできることの効果や実現性を吟味し合う学習が、参画への意欲や態度の形成につながっていくのである。

(3) 自ら社会への参画を求める授業にするためには

社会的な在り方を社会科学習で学び、それを現実社会につなぐことが、社会への参画への意識の高

まりとともに求められている。社会科学習では、これまで述べてきたように社会への参画の活動そのものを含むものではないが、そのきっかけとなるよう現実の社会とつなぐことは重要なことである。ここでは、社会へつなぐ場となる対策例を記しておく。

- 行政の機能へのきっかけとして
 - 一人暮らしのお年寄りの世話
 - 子どもの地域での育成
 - 河川、河川敷、道路、公園の清掃や除草
- 公共の機能へのきっかけとして
 - 伝統文化の継承
 - 古民家、町並みの保存
 - ごみの収集
 - 地産地消の推進
 - 地域の特産品の発掘・調査・販売
 - 住民の安心・安全
 - 自然環境の保全
 - 地域の祭り・行事 など

これ以外にも単元によって様々なつながりが考えられる。大切なことは、授業を通して子どもたちが参画への意欲を高めることである。このことを積み重ねることが、将来、市民的資質をもち合わせた人間づくりにつながっていく。社会科では、今後「望ましい社会を創造する能力」が求められるようになってくると考えられる。

2 「社会科の魅力を創る」ことについての方策

社会科の魅力のうち、香社研では次に挙げる3つの視点を大切にしたいことは、先に述べたとおりである。

- 視点1 目指す子ども像とつかませたい社会認識の明確化
- 視点2 社会参画を意識した指導計画の作成
- 視点3 子どもが実感的な問題意識・課題意識をもち、主体的に意欲をもって課題を解決する学習の在り方

ここでは、視点ごとに、これまでの香社研の研究とつないで今後の研究の方向性について説明を行いたい。

(1) 社会科の魅力〈視点1について〉

- 視点1 目指す子ども像とつかませたい社会認識の明確化

ア これまでの「社会認識」の考え方から

社会認識をつかむということは「社会現象」について事実間のつながりを発見し、その間に横たわる論理を自らが構成していくことである。社会の具体的な現象を自ら分析し、その過程を通して社会についての認識を確かなものにしていく。この認識をつかむためには、主体の中に矛盾や対立を意識化することから始まる。この矛盾や対立の意識を出発点として子どもの認識力によって、社会認識の内容である①社会諸科学の研究成果を基にして、②科学的な見方・考え方、知識が得られ、理解が深まっていく。それは知識の単なる集積ではなく、新しい問題や事態を切り開いていく力をつくることである。

イ 生活科とのつながりを意識した社会認識の設定

一口に社会認識といってもその捉え方は人によって様々であり、そのままでは授業づくりに生かしていくことが難しい。そこには、いくつかの切り口（視点）が必要である。香社研では、公民的資質を育てるという観点から、次の4つの視点を置き、その下に単元ごとの細かな内容を置くこととした。

- 視点1 社会生活の営みの認識
 視点2 社会の変化に対応する認識
 視点3 我が国の歴史に愛情をもつ認識
 視点4 国際社会の一員として参画する認識

生活科の目標	社会科の目標	社会認識
自立への基礎を培う	公民的資質の育成	〈内容知（科学知・人間知）〉
(1) ・自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心をもつ ・地域のよさに気づき、愛着もつ ・集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができる	社会生活についての理解	① 人びとが相互に様々ななかかわりをもって生活を営みながら自らが社会生活に適応し、地域社会や国家の発展に貢献する。 視点1 社会生活の営みの認識 ◎ 私たちは、人や物との関わりの中で、くらし（生活）を営み、願いをかなえる努力をすること
	我が国の国土と歴史についての理解と愛情	② 知識基盤社会やグローバル化が進む時代の中で、国際社会に主体的に生き、持続可能な社会の実現を目指す 視点2 社会の変化に対応する認識 ◎ 社会の変化に目を向け、広い視野に立って自分の考えをもつ
		③ 土地と生活のかかわりの変化にともなう時代の特色を風土の中に築いた先人の働きを見つめ、伝統や文化に愛情をもち、受け継いでいく 視点3 我が国の歴史に愛情をもつ認識 ◎ 先人の働きに人間としての生き方や在り方を求める
	公民的な内容	④ 平和で民主的な国家・社会の形成者として市民・国民にふさわしく国際社会に主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく 視点4 国際社会の一員として参画する認識 ◎ 国際社会の一員としての自覚をもち、社会事象のもつ意味を考える
		〈方法知〉
		再構成の学習を「意欲」「思考操作」「評価」から組織し、主体的に学ぶ力を育成する。 再構成の学習を組織し、主体的な学習を進める中で、「思考と表現」「指導と評価」の統一を図り、言語活動の充実を目指す

社会認識の視点と内容（試案）

視 点	事項(指導要領の内容から)	視点の内容
社会生活の営みの認識 ◎ 私たちは、人や物との関わりの中で、くらしを営み、願いをかなえる努力をすること	- 人々の健康で安全な生活を守るために、関係の諸機関が連携して政治が行われている - 地域では、人々にとって健康で安全な環境がある - 地域の人々の生活が、変化・発展していくため先人の働きがある - 地域社会に対する誇りと愛情をもつ	① 関係の諸機関が連携して、人々の健康で安全な生活を支えている ② 人々の生活が変化し発展する中で、人々の協力や先人の働きがある ③ 私たちは地域とかかわり、誇りと愛情をもつことが大切である
社会の変化に対応する認識 ◎ 社会の変化に目を向け、広い視野に立って自分の考えをもつこと	- 身のまわりの生活は、地域・国土と環境とが互いに絡み合っている - 自分たちの生活は、他地域や外国とのかかわりをもちながら営まれており、人と物の流れを通して見るのが大切である - 地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える - 我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について考える - 我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連、情報化の進展の意味について考える - 環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情をもつ - 持続可能な社会の実現を目指す	① 社会の変化とともに、郷土や国土のよさを生かしながら、人々は生産や消費などで多くの課題に立ち向かって努力している ② 人々はよりよい社会を築くよう、環境・情報・福祉・防災などの課題に協力・連携して取り組んでいる ③ 持続可能な社会を目指す取り組みを進めることが大切である ④ 社会事象は相互に関連しており、日常の動きに目を向け、その事象のもつ意味を考えるよう努める
我が国の歴史に愛情をもつ認識 ◎ 先人の働きに人間としての生き方や在り方を求めること	- 地域の人々の生活の変化や地域の発展は、先人の働きによるものであり、人々の願いでもある - 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産の理解を深める - 我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心をもつ	① 今の生活を支えているのが先人の働きであり、そこには人々の知恵や願いがある ② 郷土や国の発展に尽くした先人の業績や文化遺産を大切にし、受け継ぐ ③ 我が国の時代の特色をもとに歴史や伝統・文化に誇りをもつ
国際社会の一員として参画する認識 ◎ 国際社会の一員としての自覚をもち、社会事象のもつ意味を考えること	- 身の回りや地域の具体的な事例を調べ、感動したり、共感したりして、日本人としての自覚をもつ - 地域社会の一員として社会事象の意味をより広い視野から考え政治の働きに関心をもつ - 平和を願う日本人として世界の国々の人と共に生き、互いの文化を尊重し、国際社会における我が国の役割を自覚する - 公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力をもつ	① 人々は、社会の出来事に共感したり、感謝したり、課題をもったりして社会を発展させようと努力している ② 国際社会における我が国の役割の現状から地域社会の一員としての自覚をもつ ③ 平和を願う日本人として、世界の人々と共に生きることの大切さを自覚する ④ 公共的な事象に、自ら参画し、よりよい社会を形成しようとする

(2) 社会科の魅力(視点2について)

視点2 社会参画を意識した指導計画の作成



ア 社会科指導計画づくり

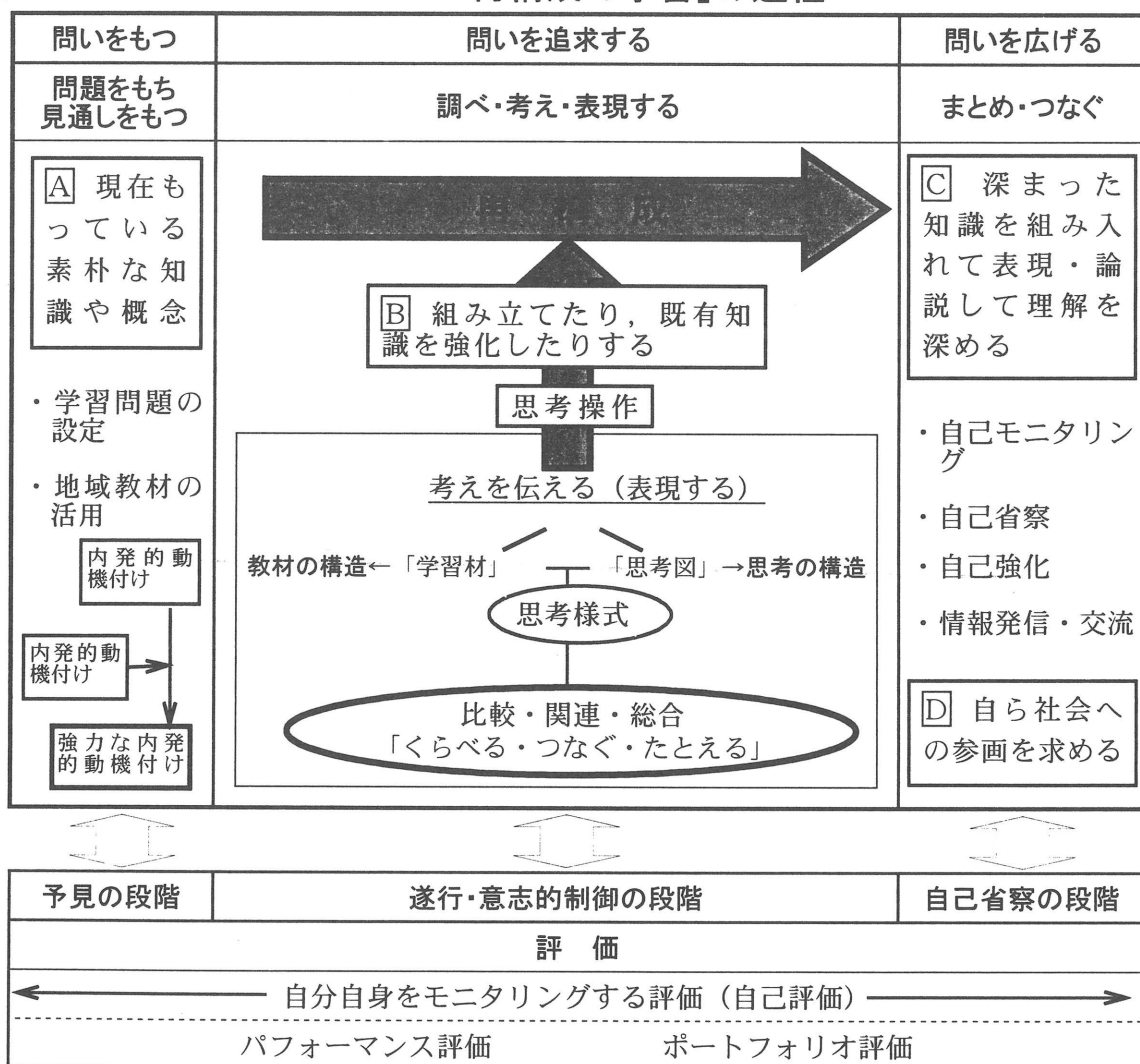
社会科指導計画を①「内容・教材の構造」②「単元観・目標・指導計画」③単元構成④「学習の構造」⑤「本時の学習指導」の5つの内容で表すことにした。図を見ていただくと分かるように、社会認識の視点と内容を踏まえ、社会参画を意識したカリキュラムをつくる計画となっている。

まず、①「内容・教材の構造」では、教科書分析と地域教材の開発を行い、その教材が、どのような知識の構造になるのかを図に位置付ける。基底となる事項、関連する事項、発展的な事項に分類・整理を行い、どのような単元づくりが可能か検討する材料とする。②「単元観・目標・指導計画」においては、先に述べた社会認識の視点を念頭に置きながら、この単元ではどのような社会認識をつかませようとするのか、整理をしていく。そして、単元観や本単元における目標を明確化していくのである。そして、③単元構成においては、社会への参画を意識した授業の組み立てを考えていく。しかし、教師の意図性だけで単元化を図るのではなく、子どもの主体性を生かしながら単元づくりを行っていくことが重要になってくる。④「学習の構造」においては、子どもの思考場面を想定し、どのような学習材を活用して子どもに思考させていくのかを考えていく。まさに思考を通して概念を獲得する場を教師が想定し、それに伴う支援を考える場としている。そして、最後に⑤「本時の学習指導」を計画していくのである。本時の学習指導については、視点3のところで詳しく述べたい。

香社研では、今まで述べてきた社会科の魅力に立って、社会認識をひらき、『再構成の学習』により自ら社会へ参画する資質・能力を高める教育を創るカリキュラム（指導計画）を求めている。

イ 「再構成の学習」論について

「再構成の学習」の過程



次に、単元の大きな流れについてみていきたい。学習は、3つの段階をサイクル活動として展開する。3つの段階とは、「予見」「遂行・意思的制御」「自己省察」である。大まかに言えば、「予見」は学習場面を設定し、見通しをもって取り組む計画を立てる段階、「遂行・意思的制御」は思考と表現の統一による再構成を図ることによって思考力を育てる段階、「自己省察」は、社会への参画につないだり、総括的な評価を入れた自己評価をしたりする段階と言える。この3つのサイクルが自己調整の過程であり、このサイクルを通して「自己効力感」を育てていくことが主体的な学びへとつながっていく。

具体的に説明すると、まず、予見の段階では、学習場面を設定し、取り組みの計画を立てる。自己効力感をもって目標設定・課題設定し、方略プランニングと合わせて計画する。遂行・意思的制御、自己省察の段階においては、自己モニタリングをしながら自己評価、自己強化をするという自己調整を図る学習を目指している。

思考力は、図のように、**A**「現在もっている素朴な知識や概念」を、**B**「組み立てたり、既存知識を強化したり」して、**C**「深まった知識を組み入れて表現・論説して理解を深める」よう再構成することによって育てられる。その過程の活動が、思考様式の活動であり、自分自身をモニタリングによって自己評価しながらの活動になる。

D「自ら社会への参画を求めること」とは、社会的な見方・考え方・在り方の学びを現実の社会につなぎ、一人一人が、社会の一員としての自覚をもち、参画につながるような意識をもったり、単元によっては、自らの活動や態度で示していく姿を求めているものである。

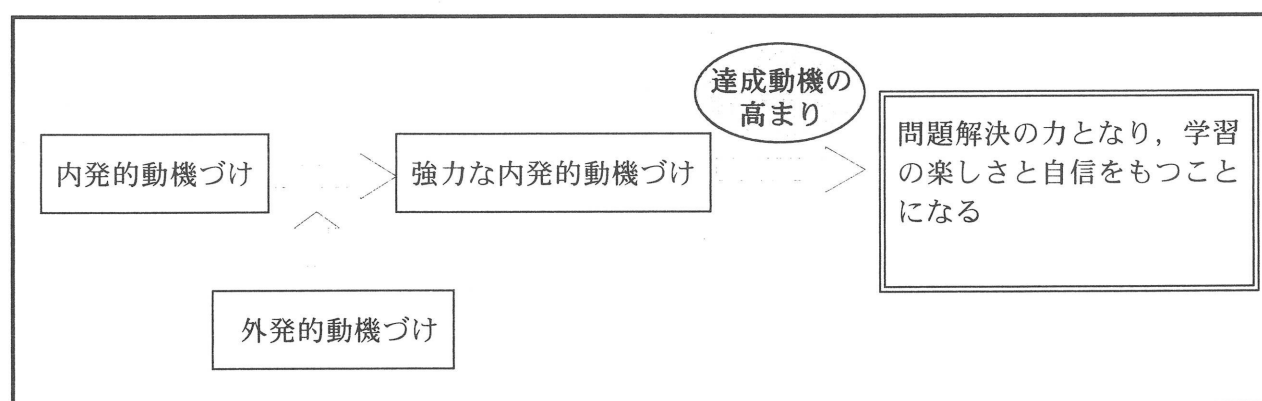
(3) 社会科の魅力<視点3について>

視点3 子どもが実感的な問題意識・課題意識をもち、主体的に意欲をもって課題を解決する学習の在り方

子どもが実感的な問題意識や課題意識をもち、主体的に意欲をもって課題を解決する学習の喜びややる気をもつことは、授業づくりの上でとても重要なことである。このことを達成するために、次の4つの点を大切にしたい。

ア 主体的な意欲をもって取り組むための方策

主体的な意欲をもって取り組むことは、実感的な問題意識・課題意識をもつこと、課題を解決する学習の喜びと自信をもつことなど、学習過程全体に機能する。この主体的な意欲をもつ大きな力は、「内発的動機づけ」と「外発的動機づけ」によるもので、この2つの動機づけの関係は、次の図に示すとおりである。



問題解決に立ち向かうため、自分のもっている経験や知識をもとにした「内発的動機づけ」を外発的な情報や新たな体験による「外発的動機づけ」によって、一層強力にしていくことが、主体的に意欲をもって取り組む源になる。このことを、もう少し詳しく述べておく。

子どもは、対象に思いや願いをもつことができれば、自ずと意欲が高まり、自ら進んで活動したり、

活動そのものに喜びを感じたりして、主体的にねばり強く活動する。それは、何かやりがいのあることを成し遂げたいという欲求、達成動機があるからである。「動機づけ」とは、何らかの行動を引き起こし、ある方向に向け、それを持続させる過程と定義されている。また、「達成動機」とは、活動の結果、成功や失敗として表れるような場面において、できるだけ高いレベルでものごとを成し遂げようとする動機で、いわゆる「やる気」である。そして、達成動機が高い子どもは失敗を恐れず成功を求め、自分の能力に適した少し難しい課題に挑戦する。一方、達成動機の低い子どもは、失敗を避けようとする気持ちが高く、確実に成功する課題か、ほとんど成功の見込みがない課題を選ぶと言われている。つまり、授業づくりにおいては、この達成動機を大切にしたい。授業づくり置き換えると、授業のゴール像が描け、単元を通した見通しをもつことと言い換えることができる。

イ 実感的な問題意識や課題意識をもつための方策

実感的な問題意識をもつことを、学習過程の①問いをもつ、②問いを追求する、③問いを広げるといったそれぞれの段階に分けて考えることができる。

① 問いをもつ段階におけるポイント

学習に対する意欲は、問いをもつ段階においても、子ども自らが生み出すことが大切である。この段階では、社会事象に対して多様な興味や関心を示したり、問題追求への意欲を育てたりすることが中心となる。

そこで、どのような場合に、子どもが知的好奇心を示すのかをよく吟味しなければならない。知的好奇心を生み出す背景には、豊かな体験やそれまでの学習経験や外部資料が存在する。そのため、体験の場を設定したり自分の生活を掘り起こしたり、他の情報によったりして、目の前の社会事象と体験や既習経験とをつないで、その中に矛盾や共通点を見いだせるように援助することが必要である。

② 問いを追求していく段階におけるポイント

最初にもった問いを、いかにして深め、追求していけるかがこの段階の課題である。問いが明らかになると子どもは意欲を示さなくなる。そのため、教師は問いをよく吟味し、深まりのある価値ある問いになるように導くとともに、表現活動を中心に据えながら、学び方を援助したり、相互交流の場を工夫したりしていくことが大切になる。

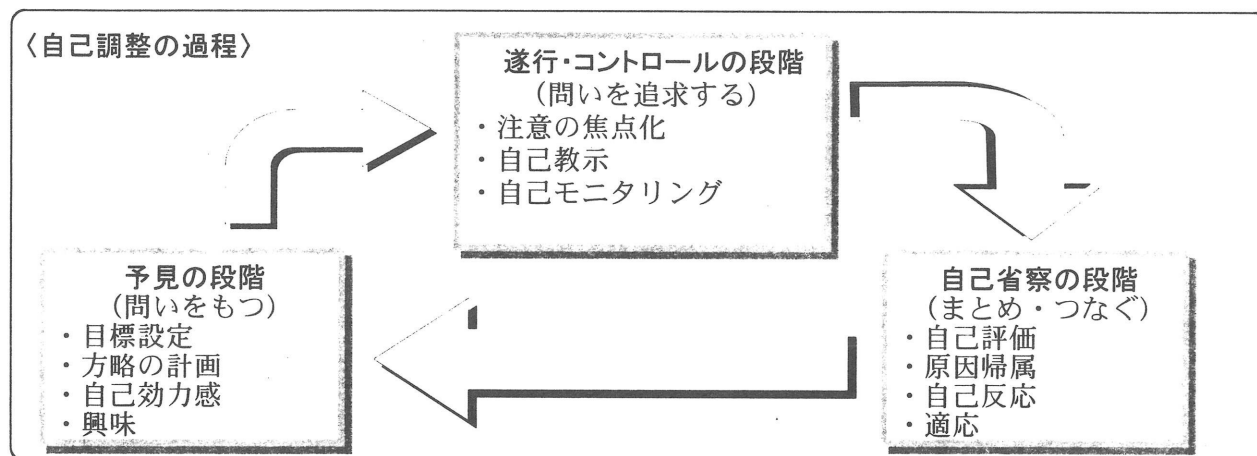
この問いを追求する段階では、実感的な課題意識をもって課題を解決していくために、2つの過程を通る。1つは実感的な課題を解決していくために必要な基礎・基本の事項について教科書で学んでいく習得の過程である。もう一つは、習得した内容からより深まった課題をつくり、解決していく過程である。これは、活用の過程といえるものである。これまでの研究とつないで考えると、習得の過程においては、教科書教材の活用を、活用の過程においては、地域教材の活用を図ったより焦点を絞った課題に子どもたちが取り組んでいくことになる。こうすることで、子どもの追求意識が深まっていく。

③ 問いを広げる段階におけるポイント

意欲が継続していくことで、問いはさらに深まり広がっていく。その場合、自分の伸びを認め、自信をもつことでの意欲づくりが大切である。生きて働く力ということが言われるが、学んだ事柄をもとに社会の一員としての自覚を生み出し、参画へつながる課題意識をもつことが大切である。社会への参画を考えると、この段階をどう設定するのが（ゴールをどう設定するかが）、単元づくりの上で非常に重要になってくる。

ウ 課題を解決する学習の喜びと自信をもつための方策

子ども達が知識や技能を学び、受容していくことだけでなく、子ども自らの課題に基づき、知識を再構成し、生きて働く知識や技能として課題を解決する過程で、自己調整しながら自分の伸びを喜び、自信をもつよう努力したことを自己評価する学習を香社研では目指している。



「自己調整」とは、目標到達を目指し、思考や感情、方略行動を自らが引き起こし、自己の内面を組織的、計画的に機能させていくことを指している。そして、自己調整は、図に示すとおり、「予見の段階」「遂行・コントロールの段階」「自己省察の段階」の3段階の循環的プロセスにより行われる。この過程は、香社研の再構成の学習の基本的な枠組みとなる。この自己調整の過程こそが、自ら参画を求める子どもをつくっていくとも言える。

学習評価の研究として捉えると、評価は学習過程における「自己調整」を図る過程としてとらえることができる。すなわち、結果主義の評価ではなく、学習の過程における「過程主義」に立つ評価である。自己評価により、自分で自分の学習をモニタリングしながら学んでいくことで、自ら学ぶ資質や能力も高まってくる。

エ 思考力の育成に向けた方策

かつて、社会認識を深める学習論が唱えられた頃には、思考力の育成に向けて「思考操作」の研究が注目された。この当時から社会認識を深めるための思考力の育成が重視されていたことが分かる。その後、平成20年度の学習指導要領では、「思考と表現の一体化」とそれに伴う「言語活動の充実」が課題となってきた。子ども主体の学習とは、子ども自らが思考し、知識や概念を獲得していく学習に他ならない。

思考力を育てるとは、物事を構造的に把握する態度を育てることである。構造的な把握を行うために、種類や用途、場所、時間経過などで分析したり、類別したり、関係付けたり、条件を変えたりしながら、思考そのものが特色としてまとまっていなければならない。思考力を育てることは、知識を構造化している過程としてとらえることが大切である。

つまり、思考力を育てるために大切なのは、正しい知識の理解にあたって、過ちやつまずき、意識のずれを自分で発見して、それを修正していく過程である。この自己評価を伴う活動は、思考の構造の中に確実に組み込んで、より正しく深い理解を進めていくことになる。これは「思考力の内面化」と呼ばれている。

思考の質的な発達を促すためには、活動がある点でせき止められるような状況に立たせることが必要である。このせき止められる状況は、社会的事象の矛盾や対立の場面であり、課題や学習問題の設定などの学習活動に生かしていくことで、学習に意欲的に取り組むようになり、飛躍的な発展にもつながってくる。子どもの思考の過程を図示すると次のページのようなになる。

まず、教材の矛盾や対立から課題意識・探究意欲を高める。そして、反応を見極め、類型化し、学習の見通しを立てていくのである。そして、教材を子どもたちが操作できる学習材にして、集団と個のかかわりを考えながら思考操作を行う。比較・関連・総合しながら再構成することにより、自らの力で知識を概念化していくのである。

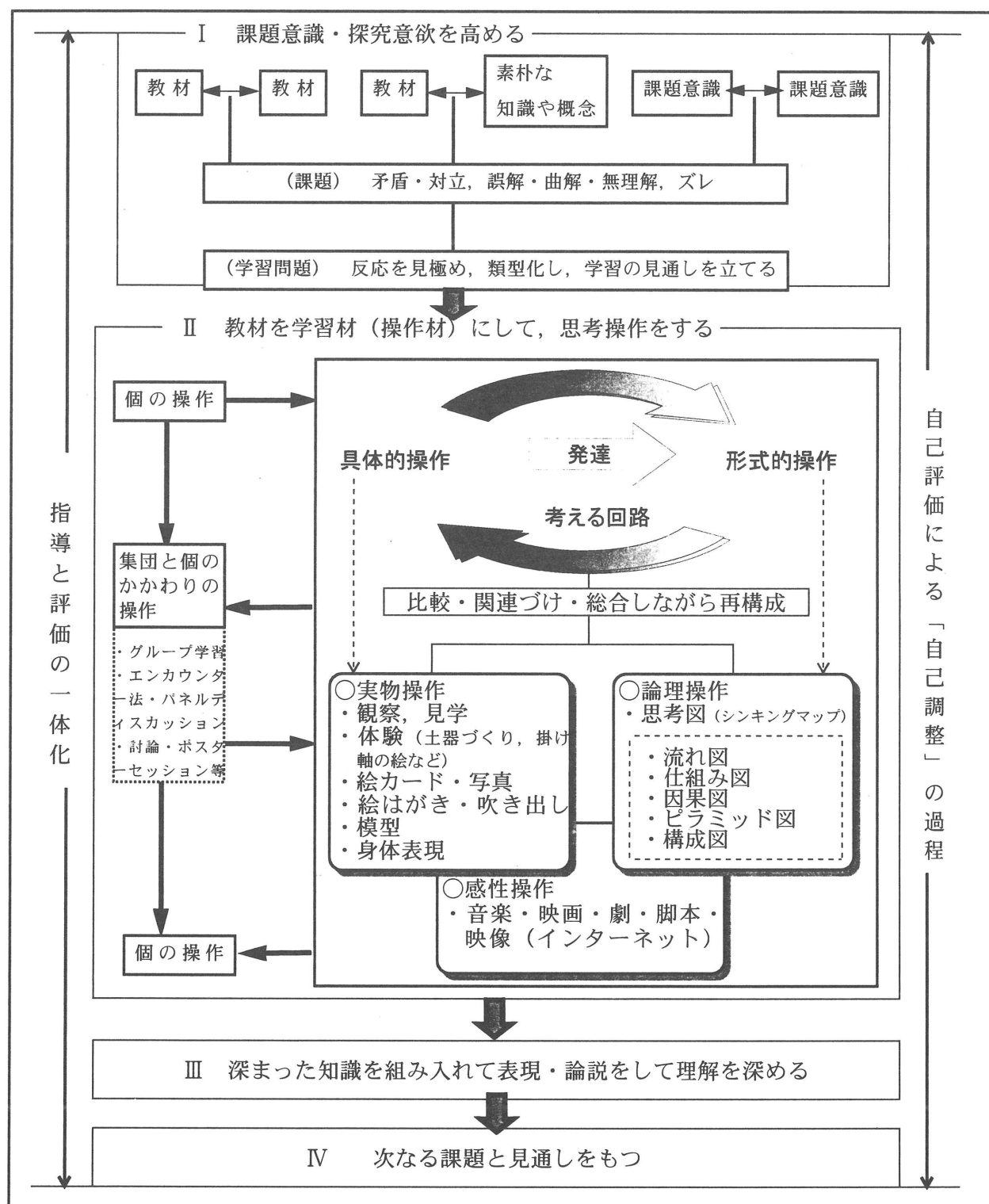
このように、主体的に自ら学びを求め、新しい知を創造していく過程こそ、これからの世の中を生

きていく子どもたちにとって必要なものである。

このような思考の過程は、教師にとっても見えにくいものである。そこで、学習材の開発に合わせて、「思考の構造」(子どもが思考する道筋)を明らかにすることに従来から取り組んできた。その中心としたのが、「思考図」(シンキングマップ)の活用である。このことによって、「思考と表現」の一体化による活動の充実を図ってきた。今後も積極的に活用していきたい。

下に、香社研が考える子どもの思考の過程について示しておく。

〈子どもの思考の過程〉



Ⅲ 研究主題探究の具体的研究内容・方法

1 研究主題(平成26年度)

自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る教育

～社会科授業づくりの基本を学び合う～

2 「社会科授業づくりの基本を学び合う」の研究内容と方法

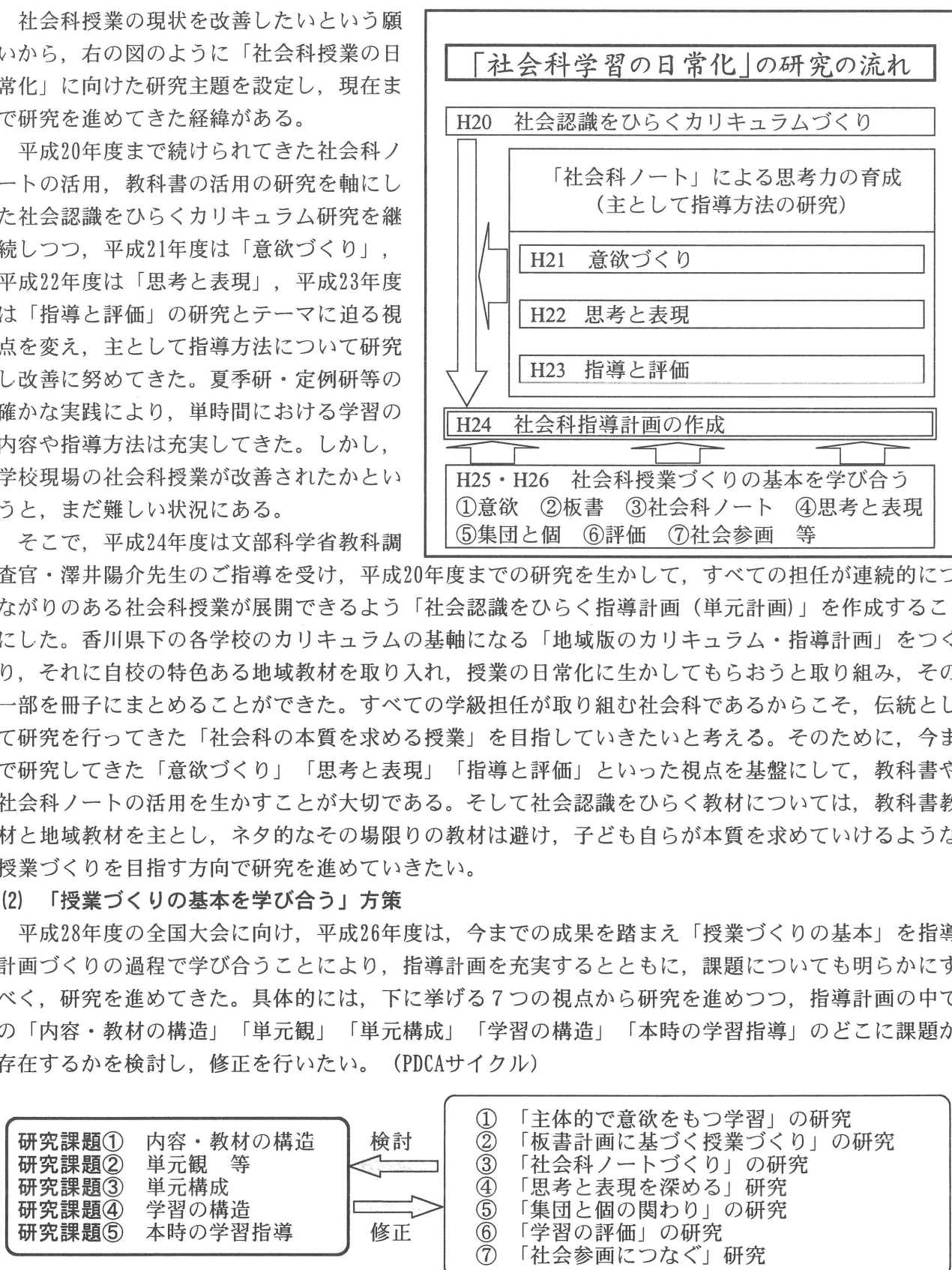
社会科授業の現状を改善したいという願いから、右の図のように「社会科授業の日常化」に向けた研究主題を設定し、現在まで研究を進めてきた経緯がある。

平成20年度まで続けられてきた社会科ノートの活用、教科書の活用の研究を軸にした社会認識をひらくカリキュラム研究を継続しつつ、平成21年度は「意欲づくり」、平成22年度は「思考と表現」、平成23年度は「指導と評価」の研究とテーマに迫る視点を変え、主として指導方法について研究し改善に努めてきた。夏季研・定例研等の確かな実践により、単時間における学習の内容や指導方法は充実してきた。しかし、学校現場の社会科授業が改善されたかという、まだ難しい状況にある。

そこで、平成24年度は文部科学省教科調査官・澤井陽介先生のご指導を受け、平成20年度までの研究を生かして、すべての担任が連続的につながりのある社会科授業が展開できるよう「社会認識をひらく指導計画(単元計画)」を作成することにした。香川県下の各学校のカリキュラムの基軸になる「地域版のカリキュラム・指導計画」をつくり、それに自校の特色ある地域教材を取り入れ、授業の日常化に生かしてもらおうと取り組み、その一部を冊子にまとめることができた。すべての学級担任が取り組む社会科であるからこそ、伝統として研究を行ってきた「社会科の本質を求める授業」を目指していきたいと考える。そのために、今まで研究してきた「意欲づくり」「思考と表現」「指導と評価」といった視点を基盤にして、教科書や社会科ノートの活用を生かすことが大切である。そして社会認識をひらく教材については、教科書教材と地域教材を主とし、ネタ的なその場限りの教材は避け、子ども自らが本質を求めているような授業づくりを目指す方向で研究を進めていきたい。

(2) 「授業づくりの基本を学び合う」方策

平成28年度の全国大会に向け、平成26年度は、今までの成果を踏まえ「授業づくりの基本」を指導計画づくりの過程で学び合うことにより、指導計画を充実するとともに、課題についても明らかにすべく、研究を進めてきた。具体的には、下に挙げる7つの視点から研究を進めつつ、指導計画の中での「内容・教材の構造」「単元観」「単元構成」「学習の構造」「本時の学習指導」のどこに課題が存在するかを検討し、修正を行いたい。(PDCAサイクル)



[参考文献]

- 「授業改革と学力評価」 北尾 倫彦 図書文化社 2008年
- 「子どもの思考力」 滝沢 武久 岩波書店 1984年
- 「考える・まとめる・表現する」 大庭・コティ・さち子 NTT出版 2009年
- 「学ぶ意欲の心理学」 市川 伸一 PHP新書 2001年
- 「学習心理学」 辰野 千寿 教育出版 1994年
- 「社会科ノート」による思考力の育成 香社研 東洋館出版社 2008年
- 「社会認識の系統からみた社会科新単元構成(試案)」 香社研 2008年
- 「自己調整学習の理論」 バリー・J・ジーママン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳 北大路書房 2006年
- 「自己調整学習の実践」 バリー・J・ジーママン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳 北大路書房 2007年
- 「自己調整学習と動機づけ」 バリー・J・ジーママン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳 北大路書房 2009年
- 「自己調整学習の成立過程」 伊藤 崇達 北大路書房 2009年
- 「小学校学習指導要領解説 社会編」 文部科学省 2008年
- 「社会認識教育の構造改革」 社会認識教育学会編 明治図書 2006年
- 初等教育資料 3月号 「社会参画への意欲や態度を形成する教育の推進」 2012年
- 「新しい公共を担う人びと」 奥野 信宏 栗田 卓也 岩波書店 2010年 など

平成26年度 本部役員組織

香川県小学校教育研究会社会科部会

香川県小学校社会科教育研究会

	氏 名	学 校 名
会 長	野村 一夫	丸亀市立飯山北小学校
副会長	山田 知志	坂出市立坂出小学校
	内山 宗治	高松市立鬼無小学校
	柴田 英明	観音寺市立常磐小学校
幹 事	高嶋 安輝	東かがわ市立三本松小学校
	片井 功	まんのう町立満濃南小学校
	亀井 伸治	高松市立十河小学校
会 計 監 査	中澤 宗治	高松市立庵治小学校
	石井 昌彦	土庄町立豊島小学校

顧問（歴代会長）

糸川 達
川田 豊弘
上川 敦生
山崎 敏和
佐藤 正文

柳 清茂
亀井 達男
丸野 忠義
植松 勝
岡根 淳二

池内 博
曾根 照正
古市 聖治
高橋 英武
徳田 仁司

岡野 啓
中田 清
大西 孝典
唐木 裕志

事務局

大嶋 和彦
藤本 博文

河田 祥司
渡部 岳史

黒田 拓志

【事務局の役割分担】

事務局 事務内容		附属高松小			附属坂出小	
		大嶋	河田	黒田	藤本	渡部
研究 運 営	研 究	◎	○		○	
	理事会・総会	◎	○		○	
	全国大会準備	◎	○		○	
研 修	夏季研修会		◎	○	○	
	研究フォーラム		○		◎	○
	定例研修会			東◎		西 ◎
	単元指導計画作成		◎		◎	
事 業	社会科の基礎・テスト		○	◎		○
	香社研だより（情報発信）			東◎		西◎
	社会科教室発行			160号		161号
	実地研修				○	◎
携帯連絡網管理			◎		○	
会 計				○	○	◎

平成26年度運営方針

I 研究の在り方について

- ① 各支部の独自性を生かしつつ、全県が一体となって研究に取り組んでいくことが重要である。香社研の会員は、個人としての研究も大切にしつつ、組織で研究を進めることの重要性についても再認識する必要がある。今年度も香社研においては各支部の研究と個人研究の両面を大切にしていきたい。
- ② 研究は、積み重ねが重要で、その核となるものは授業力である。これは学校の研究においても同じで、その学校の伝統を積み上げて「特色ある学校づくり」をしていく必要がある。香社研は、その時々課題や思いや論を単独に研究するものではない。伝統として積み重ねてきた研究の上に立ち、その時の課題を正面から受け止め研究を深めていきたい。時流に流された内容に偏らないようにしたい。

II 運営について

1 運営全体

- ① 「香社研」で勉強できることを喜びとしていた考え方が弱くなり、「香社研」に入っていないいなくても自分が得することは変わらない、かえって入っていれば仕事が増えるという考え方が強くなってきたように感じている。
そこで、会員の意識改革を継続して行い、人のためではなく、自分の力をつけるために参加をするという意識がもてるようにしていきたい。また、今後、若年の教員が増加してくることを考慮して、実地研修などでは、若い教員が主体となって企画・運営を行えるようにするなど、香社研で力をつけていくことができるような研修の在り方を探っていきたい。
- ② 「香社研」の特色づくりをもとに、様々な研修会において若年層、女性、さらには他教科の参加者数を増やす方向で取り組む。
- ③ 平成26年度は、全国大会に向けての地盤を固める年としたい。全国大会のテーマのもと、各郡市が研究を深め、大会に向けての準備を着実に進めたい。
- ④ 大会会場校との連絡を密に取り、スムーズな大会運営になるように努める。また、両会場校の足並みがそろそろよう配慮した運営に心がける。

2 総会、反省会

- ① 総会は、今年度の運営方針、研究の方向性を明らかにする場でもあるので、各郡市の庶務、研究部を中心に多数会員が参加できるよう努める。
- ② 総会、反省会の会場は、理事会、総会、懇親会等の会場が必要であることと、全県から集まるため交通の便も考えなければならない。特に小豆から来る会員について配慮を行う。

III 研修会について

1 夏季研修会

- ① 夏季研は香小研社会科部会と香社研が主催する。
- ② 夏季研は、当該年度の各郡市の研究の成果を発表する場として位置付ける。香小研社会科部会並びに香社研として会員全員が集まる唯一の機会でもあるので、香社研のテーマ沿いながら、各郡市の発表を工夫して行う。
- ③ 夏季研修会の会場確保及び運営については、当番郡市が中心になって行う。

2 定例研修会

- ① 定例研修会は、香社研が主催する。
- ② 定例研修会は、各郡市が香社研の研究主題を受けて、特色ある研究主題を設定し、その研究成果と課題を公表することにより、香川の社会科教育の発展に資するものである。全国大会に向け、香社研の研究が充実するよう提案の工夫を行う。地域教材の紹介、模擬授業、香社研だよりによるアピールなど、各郡市の特色を出し、魅力あるものにしていく。
- ③ 参加人数を確保するため、会の持ち方について下記のような工夫を行っていく。
 - ・ 各郡市は会員が積極的に参加できるように人数確保に努める。各郡市の定例研担当者には、事前に参加者をFAXにて事務局に連絡してもらうようにし、参加者の把握に努める。
 - ・ 事務局は、全ての定例会に参加する。
 - ・ 指導者は2名とする。1名は、県教委、市教委、教育事務所等の指導主事を中心に当番郡市が依頼する。もう1名は、指導というよりも社会科教育を中心に教育一般について先輩として講話し、現職と先輩とのつながりを大切にする。当番郡市が、顧問・香社研の先輩方の中から依頼する。
- ④ 定例研修会の会場確保、指導者の依頼、運営については当番郡市が中心になって行う。

3 研究フォーラム

- ① 研究フォーラムは香社研が主催する。
- ② 各郡市の研究主題による特色ある研究を個人として深めた研究や個人の研究を交流し、香川の社会科研究の特色ある研究を把握するとともに、各支部の研究や個人研究の研究意欲を高めることに資するものである。
- ③ 総会（今年度の香社研の研究の方向性提案）、夏季研（本年度の研究の成果の交流）をふまえて、研究フォーラム（今年度の振り返りと来年度の研究の方向性）を行うというように位置付け、研究をつながりのあるものにしていく。
- ④ 表彰にあたっては、複数の選考者によって行い、表彰の理由を明確にし、全員の研究意欲を高める。
- ⑤ 研究フォーラム後に懇親会を行い、研究の推進と会員の親睦を図ることとする。

Ⅲ 研究大会について

- ① 研究大会は、香小研社会科部会と香社研が主催する。
- ② 研究内容は、香社研の研究内容を基盤として、会場校の特色を生かした内容で研究を進める。
- ③ 大会の運営については、その都度香社研本部が提案し、理事会の議を経て行う。

Ⅳ 基礎・テストの編集について

- ① 社会科の基礎・テストについては、学力の充実を図る目的をもって、全国的・全県的な視野に立った編集を行う。
- ② 教科書、地図帳等に基づき編集を行い、学習の補充と発展を図り、適切な評価が行えるよう常に改善に努める。
- ③ 基礎・テストの内容の充実のため、適切な検討の機会を設ける。
- ④ 質の向上を図る意味から3～6年に教頭・主幹教諭等の指導者を置く。
- ⑤ 会場費、執筆費、編集費、教材費等を確保し、円滑に編集が行えるようにする。

平成26年度 年間運営・研修計画

月	理事会 総会等	運営部				編集部	情報発信部
		定例研修会 研究フォーラム	夏季研修会	指導計画	実地研修	社会科の基礎テ スト編集委員会	社会科教室 香社研だより
4	29日(火) 13:30～理事会 15:30～総会 17:00～ 歓送迎会 〈銀星旅館〉				29日(火) 10:00～ フィールド ワーク運営 委員会 〈銀星旅館〉		
5			31日(土) 9:30～ 事前検討会① 〈附属坂出小〉 各郡市提案者 ・協力者参加	31日(土) 11:00～ 計画・分担 〈附属坂出小〉 各郡市庶務・ 研究部長参 加	打ち合わせ 会(随時) 参加者募集		
6	6日(金) 全小社理事会 〈東京〉	14日(土) 9:30～ (丸亀・仲善) 〈岡田小〉	14日(土) 13:30～ 事前検討会② 〈附属坂出小〉	各郡市にて 作成・検討	申し込み締 め切り	社会科の基礎 表紙絵募集要 項発送	社会科教室 第160号 (総会特集)
7		5日(土) 9:30～ (小豆, さ・東) 〈附属高松小〉	5日(土) 13:30～ 事前検討会③ 〈附属高松小〉 19日(土) 9:30～ 製本・発送 〈附属高松小〉 27(日) 会場準備 18:00～ 〈高松商工会議所〉 28(月) 9:30～ 夏季研修会 (高松) 〈高松商工会議所〉		追加募集		香社研だより (丸亀・仲善) 夏季研修会要 項(高松)
8					23日(土) 24日(日) 実地研修 〈見学地検 討中〉		
9		27日(土) 9:30～ (坂・綾) 〈 〉				表紙絵作品回収 27日(土) 13:30～ 第1回 平成27年度1	香社研だより (小豆, さ・東)

						基礎・テスト 表紙絵選考会 〈銀星旅館〉	香社研だより (実地研修報告)
10		25日(土) 9:30~ (三観) 〈 〉				25日(土) 13:30~ 第2回 平成27年度1 基礎・テスト 〈銀星旅館〉 表紙絵賞状・副 賞発送	香社研だより (坂・綾)
11	6日(木) 7日(金) 全国大会 全小社理事会 〈京都〉 14日(金) 四国大会 四国理事会 〈松山〉	8日(土) 9:30~ (高松) 〈 〉				8(土) 13:30~ 第3回 平成27年度1 基礎・テスト 第1回 平成27年度2 基礎・テスト 〈銀星旅館〉 平成27年度1 基礎・テスト入 稿・校正作業 (事務局) 29日(土) 13:30~ 第2回 平成27年度2 基礎・テスト 〈銀星旅館〉	香社研だより (高松)
12	13日(土) 理事会 15:30~ 年末反省会 17:00~ 〈銀星旅館〉			13日(土) 指導計画検 討会 13:00~ 〈銀星旅館〉		13日(土) 9:00~ 第3回 平成27年度2 基礎・テスト 〈銀星旅館〉 平成27年度2 基礎・テスト入 稿・校正作業 (事務局)	
1							
2	12日(木) 13日(金) 全国大会 〈沖縄〉 21日(土) 17:00~ 年度末懇親会 (高松)	21日(土) 13:00~ 研究フォーラム 〈附属高松小〉		19日(木) 指導計画提 出締め切り			香社研だより (三・観)
3							社会科教室 第161号 (本年度のま とめ)

平成26年度 香社研フィールドワークのご案内

平成24年度のフィールドワークも例年と同様に、旅行会社の既製のプランにないオリジナルツアーを企画しました。教科書に掲載されている事例地を中心にめぐる1泊2日のフィールドワークを通して、歴史、伝統、文化や、人々の温かい心にふれることができました。多くの先生方からご好評をいただき、参加人数も年々増加しております。

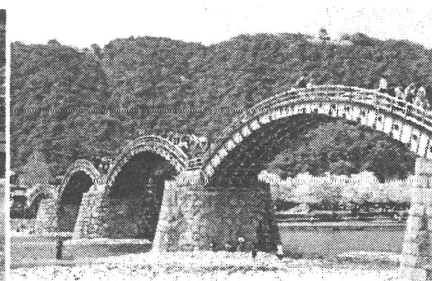
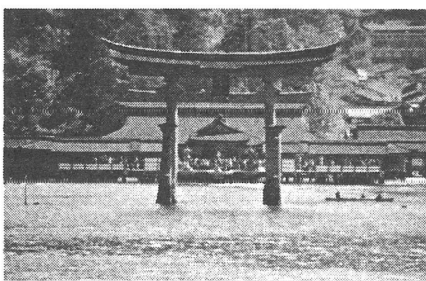
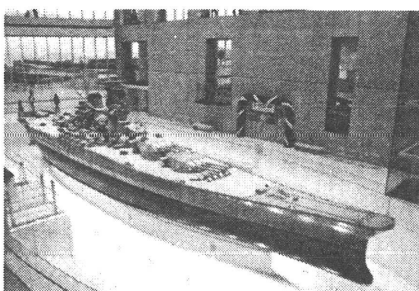
本年度も香社研ならではのツアーを下記のように計画しております。香社研の会員間のネットワークを広げることはもちろんのこと、会員でない方の参加も呼びかけて交流を深めたり、教材への造詣を深めたりしていきたいと思っております。

1 目的

- ① 教科書に掲載されている地域を巡り、教材研究を深める。
- ② 教科、世代を問わず香社研や教員同士の親睦を深め、ネットワークを広げる。

2 主な見学地

- ① アサヒビール四国工場
- ② 因島水軍城
- ③ 呉市海事歴史科学館
大和ミュージアム
- ④ マツダスタジアム
- ⑤ 宮島・厳島神社
- ⑥ 岩国城・錦帯橋
- ⑦ 筆の里工房



3 交通手段

貸し切りバス

4 費用

1人20,000円(バス代・宿泊費・食事代など)

5 申し込み方法

各支社研フィールドワーク委員へファックスにて申し込みください

6 行程

1 日 目	8/23 (土)	津田SA=高松駅=坂出駅==アサヒビール四国工場==因島水軍城== 6:40 7:20 8:00 9:30 11:00 12:00 1 3:30 =大和ミュージアム==マツダスタジアム==懇親会 15:00 16:30 18:00 21:00
2 日 目	8/24 (日)	ホテル==宮島口~~~宮島~~~宮島口==岩国城・錦帯橋== 8:00 8:40 9:00~11:00 11:15 12:00 14:30 =筆の里工房=坂出駅=高松駅=津田SA 15:30 16:30 19:00 19:40 20:20

※ 集合場所と詳細については、後日参加者皆様のご連絡いたします。

平成26年度 各郡市役員名簿

【高松市社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事
会長	内山 宗治	校長	高松市立鬼無小学校	○
副会長	中澤 宗治	校長	高松市立庵治小学校	
副会長	亀井 伸治	校長	高松市立十河小学校	
副会長	宮井 和寿	校長	高松市立川岡小学校	
庶務	瀧 義幸	教諭	高松市立一宮小学校	○
研究部	真鍋 長嗣	教諭	高松市立十河小学校	
研究部	轟 秀明	教諭	高松市立大野小学校	
研究部	網野 未来	教諭	高松市立香西小学校	

【高松北社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事
会長	中澤 宗治	校長	高松市立庵治小学校	○
副会長	内山 宗治	校長	高松市立鬼無小学校	
庶務	増田 泰己	教諭	高松市立木太小学校	○
庶務	白川 由美	教諭	高松市立高松第一小学校	
研究部	網野 未来	教諭	高松市立香西小学校	
研究部	山崎 麻子	教諭	高松市立太田南小学校	

【高松南社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事
会長	亀井 伸治	校長	高松市立十河小学校	○
副会長	宮井 和寿	校長	高松市立川岡小学校	
庶務	黒川 浩一	教諭	高松市立香南小学校	○
研究部	轟 秀明	教諭	高松市立大野小学校	

【丸亀社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事
会長	野村 一夫	校長	丸亀市立飯山北小学校	○
副会長	樋口 昌樹	校長	丸亀市立岡田小学校	
庶務	多田 明広	教諭	丸亀市立本島小学校	○
研究部	和田 早苗	教諭	丸亀市立郡家小学校	
研究部	櫻井 道芳	教諭	丸亀市立郡家小学校	

【坂出・綾歌社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事
会長	山田 知志	校長	坂出市立坂出小学校	○
副会長	田中 直樹	校長	綾川町立昭和小学校	
副会長	佐藤 孝治	教頭	坂出市立加茂小学校	
副会長	福家 光洋	教頭	綾川町立綾川小学校	
庶務	河野 富男	教諭	宇多津町立宇多津小学校	○
庶務	岡本 敏英	教諭	坂出市立坂出小学校	
研究部	宮武 克明	教諭	綾川町立滝宮小学校	
研究部	青木 弥生	教諭	綾川町立陶小学校	

【小豆社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事
会長	石井 昌彦	校長	土庄町立豊島小学校	○
副会長	前田 薫	教頭	土庄町立北浦小学校	
庶務	平林 泰徳	教諭	土庄町立湊崎小学校	○
研究部	霧羽 美緒	教諭	土庄町立土庄小学校	
研究部	樋本 清和	教諭	小豆島町立池田小学校	
研究部	林 宗利	教諭	小豆島町立安田小学校	
研究部	上嶋 光晴	講師	小豆島町立星城小学校	

【さぬき・東かがわ社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事
会長	高嶋 安輝	校長	東かがわ市立三本松小学校	○
副会長	亀井 健男	教頭	さぬき市立長尾小学校	
副会長	橋本 義人	教頭	東かがわ市立大内小学校	
庶務	白澤 一修	教諭	東かがわ市立三本松小学校	○
研究部	松村 和仁	教諭	東かがわ市立本町小学校	

【仲善社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事
会長	片井 功	校長	まんのう町立満濃南小学校	○
副会長	森 昭二	教頭	善通寺市立西部小学校	
庶務	大久保 敬現	教諭	善通寺市立竜川小学校	○
庶務	高橋 義徳	教諭	善通寺市立中央小学校	
研究部	篠原 正議	教諭	多度津町立四箇小学校	
研究部	滝井 康隆	教諭	多度津町立四箇小学校	

【三観社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事
会長	柴田 英明	校長	観音寺市立常磐小学校	○
副会長	安藤 通	教頭	三豊市立財田中小学校	
庶務	岩橋 秀司	教諭	三豊市立財田中小学校	○
庶務	平口 真章	教諭	観音寺市立大野原小学校	
研究部	大平 晃司	教諭	観音寺市立大野原小学校	
研究部	出濱 大資	教諭	観音寺市立観音寺小学校	

平成26年度 研修会別会員名簿

【高松北社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会○	網野 未来	教諭	高松市立香西小学校
定例研修会	仁科 大成	教諭	高松市立栗林小学校
定例研修会	石田 優太	教諭	高松市立太田小学校
定例研修会	妻鹿 恭介	教諭	高松市立屋島西小学校
基礎・テスト編集委員○	網野 未来	教諭	高松市立香西小学校
基礎・テスト編集委員	仁科 大成	教諭	高松市立栗林小学校
基礎・テスト編集委員	山崎 麻子	教諭	高松市立太田南小学校
基礎・テスト編集委員	熊野 真美	教諭	高松市立中央小学校
基礎・テスト編集委員	黒川 幸宣	教諭	高松市立牟礼小学校
社会科情報発信○	網野 未来	教諭	高松市立香西小学校
フィールドワーク運営委員○	安倍 千晴	教諭	高松市立新番丁小学校

【高松南社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会○	真鍋 長嗣	教諭	高松市立十河小学校
定例研修会	藤澤 大地	教諭	高松市立十河小学校
定例研修会	久保 祐亮	教諭	高松市立十河小学校
定例研修会	高尾 悠司	教諭	高松市立十河小学校
基礎・テスト編集委員(教頭先生)	小原 敏昭	教頭	高松市立浅野小学校
基礎・テスト編集委員○	葛西 秀樹	教諭	高松市立浅野小学校
基礎・テスト編集委員	柏 徹哉	教諭	高松市立川添小学校
基礎・テスト編集委員	森川 美香	教諭	高松市立大野小学校
基礎・テスト編集委員	福家 正人	教諭	高松市立国分寺北部小学校
基礎・テスト編集委員	池田 康輔	教諭	高松市立川東小学校
社会科情報発信○	高尾 悠司	教諭	高松市立十河小学校
フィールドワーク運営委員○	吉岡 光平	教諭	高松市立多肥小学校

【丸亀社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会○	増井 泰弘	教諭	丸亀市立郡家小学校
定例研修会	太田 和美	教諭	丸亀市立岡田小学校
定例研修会	西山 正章	教諭	丸亀市立飯野小学校
定例研修会	中島 敬	教諭	丸亀市立城北小学校
定例研修会	三田 誠子	教諭	丸亀市立城南小学校
基礎・テスト編集委員(教頭先生)	合田 吉宏	教頭	丸亀市立城乾小学校
基礎・テスト編集委員	馬場 直明	教諭	丸亀市立栗熊小学校
基礎・テスト編集委員	秋山 侑大	教諭	丸亀市立城坤小学校
基礎・テスト編集委員	櫻井 道芳	教諭	丸亀市立郡家小学校
社会科情報発信○	寒川 英樹	教諭	丸亀市立垂水小学校
フィールドワーク運営委員○	櫻井 道芳	教諭	丸亀市立郡家小学校

【坂出・綾歌社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会○	河野 富男	教諭	宇多津町立宇多津小学校
定例研修会	宮武 克明	教諭	綾川町立滝宮小学校
定例研修会	戸城 一騎	教諭	坂出市立川津小学校
定例研修会	宮崎 由紀	教諭	坂出市立林田小学校
定例研修会	鳥居久宮子	教諭	綾川町立陶小学校
基礎・テスト編集委員(教頭先生)	佐藤 孝治	教頭	坂出市立加茂小学校
基礎・テスト編集委員○	山本香代子	教諭	坂出市立坂出小学校
基礎・テスト編集委員	青木 弥生	教諭	綾川町立陶小学校
基礎・テスト編集委員	戸城 一騎	教諭	坂出市立川津小学校
基礎・テスト編集委員	大砂古佳美	教諭	綾川町立羽床小学校
社会科情報発信○	宮武 克明	教諭	綾川町立滝宮小学校
社会科情報発信	岡本 敏英	教諭	坂出市立坂出小学校
フィールドワーク運営委員○	蔵本 勝広	教諭	宇多津町立宇多津北小学校
香社研青年部参加希望者	藤井 隆法	教諭	坂出市立松山小学校
香社研青年部参加希望者	大谷三千代	教諭	坂出市立加茂小学校
香社研青年部参加希望者	福田 佳代	教諭	坂出市立府中小学校
香社研青年部参加希望者	高吉 弘子	教諭	綾川町立昭和小学校

【小豆社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会○	平林 泰徳	教諭	土庄町立湊崎小学校
定例研修会	靄羽 美緒	教諭	土庄町立土庄小学校
定例研修会	上嶋 光晴	講師	小豆島町立星城小学校
定例研修会	林 宗利	教諭	小豆島町立安田小学校
基礎・テスト編集委員○	靄羽 美緒	教諭	土庄町立土庄小学校
基礎・テスト編集委員	樋本 清和	教諭	小豆島町立池田小学校
社会科情報発信○	福井 健文	教諭	土庄町立四海小学校
フィールドワーク運営委員○	戒 麻里	教諭	小豆島町立苗羽小学校

【さぬき・東かがわ社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会○	白澤 一修	教諭	東かがわ市立三本松小学校
定例研修会	六車 浩	教諭	東かがわ市立大内小学校
定例研修会	原井 和彦	教諭	東かがわ市立白鳥小学校
定例研修会	山地 千尋	教諭	さぬき市立長尾小学校
定例研修会	山下 博	教諭	さぬき市立石田小学校
基礎・テスト編集委員(教頭先生)	橋本 義人	教頭	東かがわ市立大内小学校
基礎・テスト編集委員○	六車 浩	教諭	東かがわ市立大内小学校
基礎・テスト編集委員	田中 由賀里	教諭	さぬき市立長尾小学校
基礎・テスト編集委員	砂川 彩	教諭	東かがわ市立本町小学校
社会科情報発信○	山下 博	教諭	さぬき市立石田小学校
フィールドワーク運営委員○	久保田 直寛	教諭	さぬき市立志度小学校

【仲善社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会	竹森 仁志	教諭	琴平町立琴平小学校
定例研修会	三谷 恵	教諭	琴平町立榎井小学校
基礎・テスト編集委員(教頭先生)	森 昭二	教頭	善通寺市西部小学校
基礎・テスト編集委員	尾崎 純一	教諭	善通寺市立筆岡小学校
基礎・テスト編集委員○	香川 卓也	教諭	善通寺市立東部小学校
社会科情報発信○	篠原 正議	教諭	多度津町立四箇小学校
フィールドワーク運営委員○	藤田 啓明	教諭	善通寺市立西部小学校

【三観社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会○	岩橋秀司	教諭	三豊市立財田中小学校
定例研修会	出濱大資	教諭	観音寺市立観音寺小学校
定例研修会	古子貴将	教諭	観音寺市立観音寺小学校
定例研修会	白川康太	教諭	観音寺市立観音寺小学校
基礎・テスト編集委員(教頭先生)	安藤 通	教頭	三豊市立財田中小学校
基礎・テスト編集委員○	岸上也寸志	教諭	三豊市立上高野小学校
基礎・テスト編集委員	大平晃司	教諭	観音寺市立大野原小学校
基礎・テスト編集委員	片山大輔	教諭	三豊市立仁尾小学校
社会科情報発信○	出濱大資	教諭	観音寺市立観音寺小学校
フィールドワーク運営委員○	守屋 顕	教諭	観音寺市立柞田小学校

平成26年度 香社研 会員名簿

【高松北社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	安倍 千晴	高松市立新番丁小学校	2 年
2	高橋 洋子	高松市立新番丁小学校	少人数
3	石橋 奈生子	高松市立栗林小学校	5 年
4	仁科 大成	高松市立栗林小学校	6 年
5	白川 由美	高松市立高松第一小学校	5 年
6	高木 恭子	高松市立太田小学校	4 年
7	白根 雅史	高松市立太田小学校	4 年
8	石田 優太	高松市立太田小学校	5 年
9	姫田 朋樹	高松市立木太小学校	教頭
10	増田 泰己	高松市立木太小学校	6 年
11	網野 未来	高松市立香西小学校	4 年
12	中村 祥子	高松市立鬼無小学校	3 年
13	大奥 洋介	高松市立鬼無小学校	4 年
14	内山 宗治	高松市立鬼無小学校	校長
15	熊野 真美	高松市立中央小学校	6 年
16	山崎 麻子	高松市立太田南小学校	6 年
17	橋本 康裕	高松市立太田南小学校	主幹
18	妻鹿 恭介	高松市立屋島西小学校	4 年
19	山下 美裕	高松市立屋島小学校	1 年
20	黒川 幸宣	高松市立牟礼小学校	5 年
21	中澤 宗治	高松市立庵治小学校	校長
22	黒田 拓志	附属高松小学校	3 年
23	河田 祥司	附属高松小学校	5 年
24	大嶋 和彦	附属高松小学校	教頭

【高松南社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	坪井 孝明	高松市立鶴尾小学校	4 年
2	柏 徹哉	高松市立川添小学校	5 年
3	瀧 義幸	高松市立一宮小学校	4 年
4	篠原 絵里香	高松市立一宮小学校	6 年
5	吉岡 光平	高松市立多肥小学校	5 年
6	田村 一郎	高松市立多肥小学校	少人数
7	宮井 和寿	高松市立川岡小学校	校長
8	高重 淳	高松市立川島小学校	6 年
9	藤澤 大地	高松市立十河小学校	3 年
10	真鍋 長嗣	高松市立十河小学校	4 年
11	久保 祐亮	高松市立十河小学校	4 年
12	高尾 悠司	高松市立十河小学校	5 年
13	森口 英樹	高松市立十河小学校	6 年
14	安倍 幸則	高松市立十河小学校	教頭
15	亀井 伸治	高松市立十河小学校	校長
16	藤沢 香居	高松市立植田小学校	1 年
17	市原 茂幹	高松市立植田小学校	教頭
18	森川 美香	高松市立大野小学校	3 年
19	花房 祐史	高松市立大野小学校	4 年
20	野土 裕彦	高松市立大野小学校	5 年
21	轟 秀明	高松市立大野小学校	6 年
22	水口 純	高松市立浅野小学校	3 年
23	葛西 秀樹	高松市立浅野小学校	少人数
24	小原 敏昭	高松市立浅野小学校	教頭
25	池田 康輔	高松市立川東小学校	3 年
26	黒川 浩一	高松市立香南小学校	5 年
27	福家 正人	高松市立国分寺北部小学校	5 年
28	高木 浩彰	高松市立国分寺南部小学校	3 年
29	高吉 直之	高松市立国分寺南部小学校	教頭
30	平井 小百合	三木町立氷上小学校	6 年
31	小笠原 学	三木町立氷上小学校	教頭
32	松本 美香	三木町立平井小学校	6 年

【丸亀社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	合田 吉宏	丸亀市立城乾小学校	教頭
2	小野 咲絵	丸亀市立城乾小学校	3 年
3	秋山 侑大	丸亀市立城坤小学校	5 年
4	佐藤 浩子	丸亀市立城北小学校	4 年
5	中島 敬	丸亀市立城北小学校	専科
6	三田 誠子	丸亀市立城南小学校	2 年
7	平田 晃司	丸亀市立城南小学校	4 年
8	小谷 修	丸亀市立城東小学校	教頭
9	旅田 敏弘	丸亀市立城東小学校	2 年
10	高木 弘信	丸亀市立城東小学校	3 年
11	長沼 裕子	丸亀市立城辰小学校	1 年
12	多田 明広	丸亀市立本島小学校	6 年
13	和田 早苗	丸亀市立郡家小学校	4 年
14	増井 泰弘	丸亀市立郡家小学校	専科
15	櫻井 道芳	丸亀市立郡家小学校	5 年
16	川田 剛	丸亀市立郡家小学校	4 年
17	西山 正章	丸亀市立飯野小学校	3 年
18	北分 英樹	丸亀市立飯野小学校	4 年
19	寒川 英樹	丸亀市立垂水小学校	5 年
20	佐藤 南	丸亀市立垂水小学校	6 年
21	眞井 孝征	丸亀市立富熊小学校	特別支援
22	馬場 直明	丸亀市立栗熊小学校	3 年
23	太田 和美	丸亀市立岡田小学校	3 年
24	平田 啓介	丸亀市立岡田小学校	4 年
25	樋口 昌樹	丸亀市立岡田小学校	校長
26	野村 一夫	丸亀市立飯山北小学校	校長
27	十河 弘賢	丸亀市立飯山北小学校	2 年
28	乗松 直樹	丸亀市立飯山南小学校	6 年

【坂綾社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	山田 知志	坂出市立坂出小学校	校長
2	山本香代子	坂出市立坂出小学校	1年
3	岡本 敏英	坂出市立坂出小学校	3年
4	原口 弓子	坂出市立東部小学校	少人数
5	山中 順	坂出市立金山小学校	1年
6	丸尾 浩一	坂出市立西庄小学校	2年
7	川中 祥照	坂出市立林田小学校	校長
8	山西由里子	坂出市立林田小学校	1年
9	宮崎 由紀	坂出市立林田小学校	3年
10	田井 敏之	坂出市立加茂小学校	校長
11	佐藤 孝治	坂出市立加茂小学校	教頭
12	大谷三代子	坂出市立加茂小学校	3年
13	福田 佳代	坂出市立府中小学校	4年
14	白川 豊浩	坂出市立川津小学校	教頭
15	戸城 一騎	坂出市立川津小学校	4年
16	藤井 隆法	坂出市立松山小学校	6年
17	大西 浩史	坂出市立瀬居小学校	教頭
18	吉田 和弘	坂出市立櫃石小学校	校長
19	福家 光洋	綾川町立綾上小学校	教頭
20	宇山 知昌	綾川町立綾上小学校	特別支援
21	田中 直樹	綾川町立昭和小学校	校長
22	高吉 弘子	綾川町立昭和小学校	6年
23	青木 弥生	綾川町立陶小学校	6年
24	鳥居久宮子	綾川町立陶小学校	4年
25	宮武 克明	綾川町立滝宮小学校	6年
26	花房 長広	綾川町立羽床小学校	校長
27	大砂古佳美	綾川町立羽床小学校	3年
28	河野 富男	宇多津町立宇多津小学校	少人数
29	橋本 美穂	宇多津町立宇多津北小学校	6年
30	蔵本 勝広	宇多津町立宇多津北小学校	特別支援

【小豆社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	石井 昌彦	土庄町立豊島小学校	校長, 香社研理事
2	前田 薫	土庄町立北浦小学校	教頭
3	靄羽 美緒	土庄町立土庄小学校	5 年
4	平林 泰徳	土庄町立湊崎小学校	学力支援, 香社研理事
5	福井 健文	土庄町立四海小学校	3 年
6	樋本 清和	小豆島町立池田小学校	特別支援
7	上嶋 光晴	小豆島町立星城小学校	3 年
8	林 宗利	小豆島町立安田小学校	3 年
9	戎 麻里	小豆島町立苗羽小学校	5 年

【さぬき・東かがわ社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	高嶋 安輝	東かがわ市立三本松小学校	校長
2	廣瀬 強	さぬき市立神前小学校	校長
3	穴吹 眞二	さぬき市立造田小学校	校長
4	岡田 保	東かがわ市立本町小学校	校長
5	竹内 久司	さぬき市立津田小学校	校長
6	橋本 義人	東かがわ市立大内小学校	教頭
7	亀井 健男	さぬき市立長尾小学校	教頭
8	山地 千尋	さぬき市立長尾小学校	専科
9	和田 千幸	さぬき市立長尾小学校	専科
10	六車 浩	東かがわ市立大内小学校	6年
11	田中 由賀里	さぬき市立長尾小学校	5年
12	山下 博	さぬき市立石田小学校	特別支援
13	原井 和彦	東かがわ市立白鳥小学校	5年
14	白澤 一修	東かがわ市立三本松小学校	少人数
15	梅本 明宏	さぬき市立長尾小学校	4年
16	松村 和仁	東かがわ市立本町小学校	3 年
17	砂川 彩	東かがわ市立本町小学校	1 年
18	久保田 直寛	さぬき市立志度小学校	3年

【仲善社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	片井 功	まんのう町立満濃南小学校	校長
2	岩崎 保雄	まんのう町立四条小学校	校長
3	森 昭二	善通寺市立西部小学校	教頭
4	坂倉 徹	まんのう町立満濃南小学校	教頭
5	森井 信一	まんのう町立仲南小学校	教頭
6	篠原 正議	多度津町立四箇小学校	教諭
7	大木 陽平	まんのう町立満濃南小学校	教諭
8	香川 卓也	善通寺市立東部小学校	教諭
9	滝井 康隆	多度津町立四箇小学校	教諭
10	三谷 恵	琴平町立榎井小学校	教諭
11	竹森 仁志	琴平町立琴平小学校	教諭
12	藤田 啓明	善通寺市立西部小学校	教諭
13	尾崎 純一	善通寺市立筆岡小学校	教諭
14	大久保 敬現	善通寺市立竜川小学校	教諭

【三観社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	深川 隆	観音寺市立萩原小学校	教頭
2	黒川 実	観音寺市立大野原小学校	4 年
3	平口 真章	観音寺市立大野原小学校	5 年
4	大平 晃司	観音寺市立大野原小学校	4 年
5	井原 純平	観音寺市立大野原小学校	6 年
6	出濱 大資	観音寺市立観音寺小学校	6 年
7	古子 貴将	観音寺市立観音寺小学校	5 年
8	白川 康太	観音寺市立観音寺小学校	6 年
9	柴田 英明	観音寺市立常磐小学校	校長
10	高橋 克佳	観音寺市立常磐小学校	教頭
11	石井 英樹	観音寺市立柞田小学校	5 年
12	守屋 顕	観音寺市立柞田小学校	3 年
13	秋元 一秀	観音寺市立一ノ谷小学校	4 年
14	安藤 通	三豊市立財田中小学校	教頭
15	岩橋 秀司	三豊市立財田中小学校	5 年
16	岸上也寸志	三豊市立上高野小学校	支援担当
17	浪越 由記	三豊市立比地大小学校	特別支援
18	泉宮 広也	三豊市立上高瀬小学校	5 年
19	山野 正登	三豊市立大見小学校	教頭
20	吉田 匡克	三豊市立大見小学校	5 年
21	萬亀 弘吉	三豊市立詫間小学校	教頭
22	臼杵 優	三豊市立松崎小学校	校長
23	石川 浩史	三豊市立松崎小学校	4 年

香川県小学校社会科教育研究会会則

1 総則

第1条 本会は、香川県小学校社会科教育研究会という。

第2条 本会は、会員相互連絡協調して、香川県社会科教育の振興を図ることを目的とする。

第3条 本会は、社会科教育に関心をもち、本会の趣旨に賛同する者をもって組織する。

2 事業

第4条 本会は、その目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 社会科教育振興に関する研究会、発表会、講習会を開くこと
- 2 社会科教育に関する資料の収集、情報交換をすること
- 3 社会科教育に関する編集、刊行をすること
- 4 定例研究集会及び研究委員会等の開催に関すること
- 5 文部科学省並びに香川県教育委員会等の諮問に答え、意見の具申をすること
- 6 その他社会科教育に関すること

3 役員

第5条 本会に、次の役員をおく。

会長 1名 副会長 若干名 幹事 若干名 会計監査 2名
理事（各郡市代表）若干名 顧問 若干名
事務局（運営・会計・研究部代表・編集部代表）若干名

第6条 会長、副会長は、理事会の議を経て、総会において承認する。

幹事、会計監査は、会長の指名とする。

理事は、各郡市研究会から選出する。

顧問は、本会の歴代会長とする。

事務局は、会長の指名とする。

第7条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

副会長は、会長をたすけ、会長事故のあるときは、その代理をする。

幹事は、本会の目的を達成するよう援助する。

会計監査は、会計事務を監査する。

理事は、理事会を構成し、重要事項を審議または議決し、会務の執行にあたる。

事務局は、運営事務、会計事務、研究事務、編集事務を処理する。

第8条 役員の任期は、1ヶ年とする。但し、重任することができる。

補欠役員の任期は、残任期間とする。

役員は、任期が満了しても後任者が就任するまで、その職務を行わなければならない。

4 理事会

第9条 理事会は、必要に応じて会長が招集する。

第10条 理事会は、総会に提出する議題を審議し、会務の執行に当たる。ただし、緊急を要する場合には会長、副会長で処理し、次の理事会の承認を求めるものとする。

5 総会

第11条 総会は、必要な場合会長が招集する。

第12条 総会は、必要に応じ、理事会から提出された事項について協議し、承認する。

6 定例研究集会

第13条 本会の事業を遂行するために、定例研究集会を開催する。

第14条 定例研究集会の組織及び運営については、理事会で決定する。

7 研究委員会等

第15条 本会の事業を遂行するために、研究委員会及び社会科の基礎・テスト編集委員会を開催する。

第16条 研究委員会及び社会科の基礎・テスト編集委員会の組織及び運営については理事会で審議し、委員会は会長が招集する。

8 会計

第17条 本会の経費は、会員の会費、寄付金並びに事業による収入金による。

第18条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第19条 本会の予算の議決および決算の承認は、総会で行う。

附則

1 本会の規約の改廃は、理事会で決める。

2 本会の施行に必要な細則は、別に定める。

3 本規約は、昭和24年4月1日より施行する。

4 平成13年1月8日改正、平成13年4月1日より施行する。

5 平成21年4月29日改正、同日より施行する。

6 平成22年4月29日改正、同日より施行する。

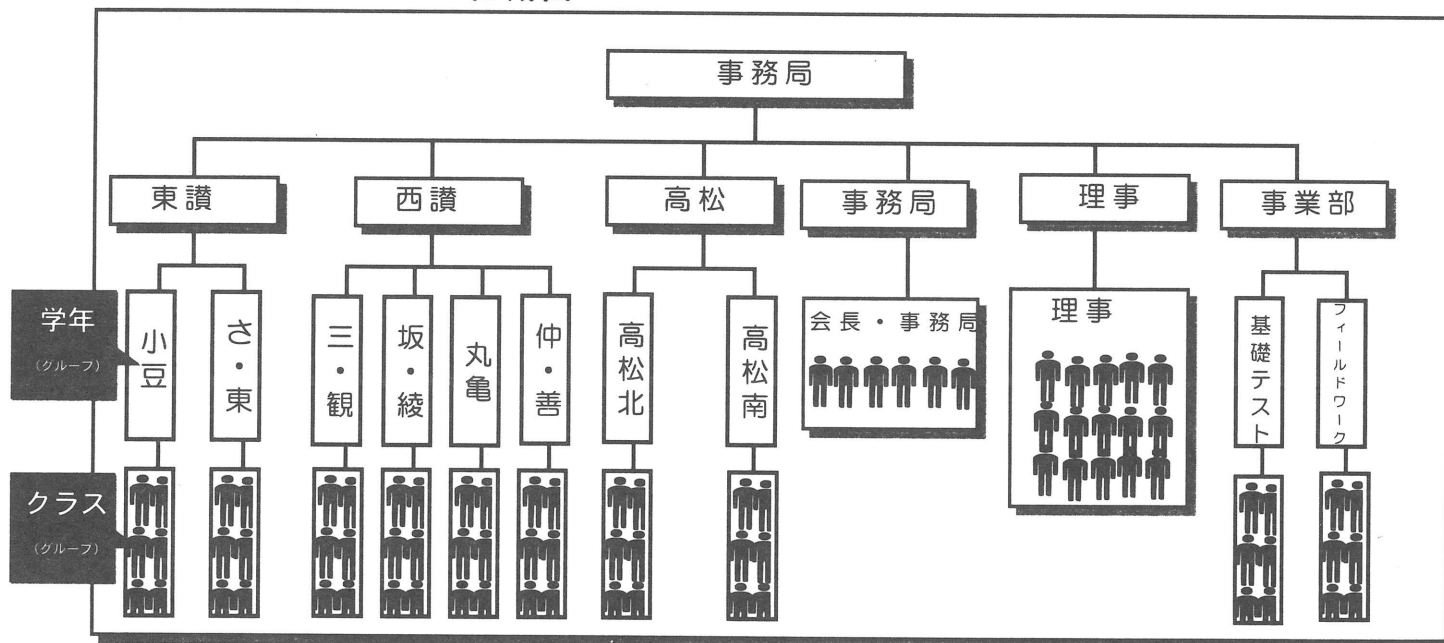
香社研 携帯メール 資料

当研究会では、平成23年度よりメールによる連絡網(ミッタシステム)を導入しています。このシステムは携帯、パソコン等の登録されたメールアドレスにメールを発信して、かつそのメールを見たかどうか管理者は確認できるシステムです。

■ 利点

- ① 今までのハガキやFAXと異なり、瞬時に全員に送れます。
- ② 伝達でなく同じ内容の文章が全員に配信できますので伝え忘れなどがなくなります。
- ③ 管理者さえメールアドレスを見ることができないのでプライバシーも保護されます。
- ④ 活動の案内などの緊急連絡に使えます(定例研・事前研 など)
- ⑤ 自宅に居なくても連絡は受け取れます(携帯メール使用時)
- ⑥ クラス単位で管理者(送信側)はメールを見たかどうか確認でき、また出欠も返事できます。
- ⑦ 退会、複数登録も自由にできます。

■ 香社研携帯メール 組織図



■ 各郡市での進め方(携帯メール登録方法)

後記の1~7の手順で、登録する。

※1 よく利用する携帯メールをお願いします。(アドレスは、他の人にはわかりません)

※2 理事、基礎テスト、フィールドワーク担当者は、各社研とは別に、もう一度クラスを追加登録してください。

■ 登録の方法

1 メールを送る

下記のメールアドレスに申請メール(宛先のみ。本文は不要です)を送ってください。

■ 申請メールの宛先 → ad@ptamt.com

■ QRコード利用時は



Docomo



AU SoftBank

2 ご案内メールが返ってくるのを待つ

登録画面のアドレスが記入された「学校連絡網登録のご案内」メールが返ってこない場合は、各携帯会社にお問い合わせください。

[件名] 学校連絡網登録のご案内

学校連絡網への登録を行ってください。http://ptamt.com/*****

3 ご案内メールにあるアドレスをクリック

http://ptamt.com/***** 右図

4 学校コードを入力する

- ① 学校コードをクリック
- ② 6195645 を入力する。
- ③ 決定ボタンを押す

5 学年(グループ)を選択する

- ① 6つの学年(グループ)の中から、ご自身の所属グループを選択する。

■ 東 讃 ■ 西 讃 ■ 高 松 ■ 事務局 ■ 理 事 ■ 事業部

- ② 決定ボタンを押す。

6 クラスを選択し、氏名を入力する

- ① クラスを選択する。

■ 小豆 ■ さ・東 ■ 三・観 ■ 坂・綾 ■ 丸 亀 ■ 仲・善
■ 高松北 ■ 高松南 ■ 基礎テスト ■ フィールドワーク

- ② 出席番号は、入れない。
- ③ 名前を入力する。
- ④ 決定ボタンを押す。

7 クラス等2つ以上に所属する場合は、追加登録する。

1～6を繰り返し、5や6で追加するクラスを追加登録する。

